

交付申請書

別紙 1

事業計画書

団体名：犬山 生成 AI 実行委員会

事業名	生成 AI EXPO in 犬山
事業の目的	市民への AI 教育： 犬山市民に AI の基本と使い方を広め、最新技術を理解し使いこなせるようにする。 若者の AI 技術者育成： 若者を中心に AI 技術者を育て、地域コミュニティの活性化と人材流出を防ぐ。 地域経済の活性化： AI を活用して地元企業のビジネスチャンスを広げ、新しい企業やスタートアップを生み出すことで地域経済を活性化する。 地域課題の解決： 高齢化社会などの地域の課題を AI を使って解決する。 持続可能な社会の構築： 市民がテクノロジーの進展に柔軟に対応できるように支援し、持続可能な社会を作る。。
事業内容	【背景】 犬山市は、観光業を中心とした町だが、それ以外の部分で犬山市に根付いた産業が少なく、IT に関わる人物は犬山で多くいながら、犬山市から出た人物は少なくない。 （例：元 Apple Japan 代表前刀氏、現ソフトバンク代表：宮川氏） その状態から打破するため、2023 年 12 月に生成 AI の犬山市民への定着に向けてのイベントとして、「生成 AI EXPO in 犬山」を実施した。

しかし、開催決定時期が2ヶ月と短く、案内準備も遅かったため、生成AIの知識や関心も薄い参加者も多く、200名の参加者が集まったが、犬山市民の参加者は11.5%だった。

「継続的な参加だった場合は、参加できる」、「もっと、多方面の方や事例を紹介してほしい」という要望が市民から上がった。

また、愛知県のお市からの生成AI EXPOの要望も多く、2024年5月に生成AI EXPO in 名古屋を親子向けに実施したところ、1000名の参加者が集まった。

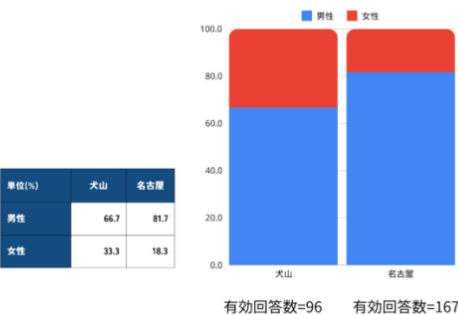
2024年にも開催することで、改めて犬山市民への定着活動を促進させていきたい。

【生成AI EXPO データ：NewsPicks より】

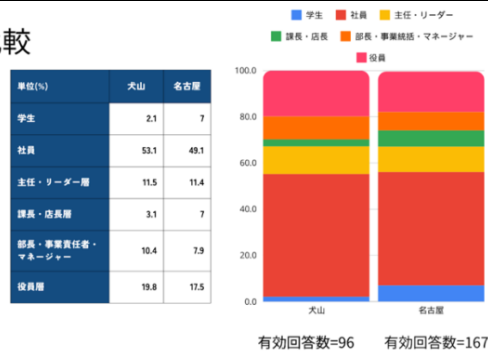
年齢比較



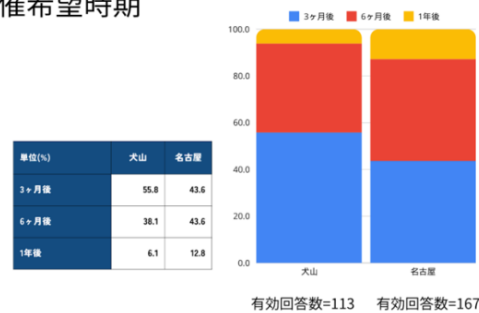
性別比較



役職比較



次回開催希望時期



<対象者>

背景：AI や新技術に興味がある個人、地域社会の活性化に関心がある市民。

価値観：技術革新を前向きに捉え、自己発展および地域貢献に意欲的な人々。

<実施場所>

施設：フロイデ（オンライン配信を中心）

<実施方法>

- ・ワークショップとセミナー： AI の基礎から応用までを学べるワークショップと、専門家によるセミナーを定期的開催。

- ・周知方法： SNS、地域新聞、公式ウェブサイト、市民会館や図書館での掲示、地域イベントでの告知などを通じて広く周知。

具体的なワークショップ&セミナー内容案

【ワークショップ：担当者：伊藤雅康】

対象：親子向け（小～中学生）

内容：画像生成を使ったカードゲーム。画像生成 AI (Copilot) を使用して、動物や子ども達が考える犬山のマスコットを作成して、カード化。持ち帰れるようにして、渡す。

※文部科学省ガイドラインで BingChat の使用において未成年は、保護者同伴に対応。

※著作権の観点についても必ず他人に迷惑をかけない使い方をすることをワークショップ内で説明。

説明例：伊藤雅康講演資料参照

(スライドの表現は違えど、必ず本内容に沿うものは説明)

8月の文化庁の内容にも明記あり。

本内容は親子向けのため、親側にも説明が必要であり、表現は、両者に合わせて表現している。

※本スライドは、愛知教育大学名古屋附属中学校の生徒及び親子に講演したもの

About Copyright
著作権について



出力内容
女性芸能人Aの複製
追加学習で意図して学習させた

議論
この場合は著作権侵害か



About Copyright
著作権について



プロンプト
いぬ

議論
この画像に著作権はあるのか

About Copyright

著作権について

AIが自律的に生成したものは、
「思想又は感情を創作的に表現したもの」ではなく、
著作物に該当しないと考えられます。

(例) 人が何ら指示*を与えず(又は簡単な指示を与えるにとどまり)
「生成」のボタンを押すだけでAIが生成したもの
※プロンプト等

About Copyright

著作権について

著作権の視点

写真・絵画など		画像生成AI
著作権の有無	付与される	付与の判断が困難
著作権侵害の判断	類似性・依拠性	類似性・依拠性
画像生成AIは基本的に写真や絵画と比べて著作権の立場としては弱い		

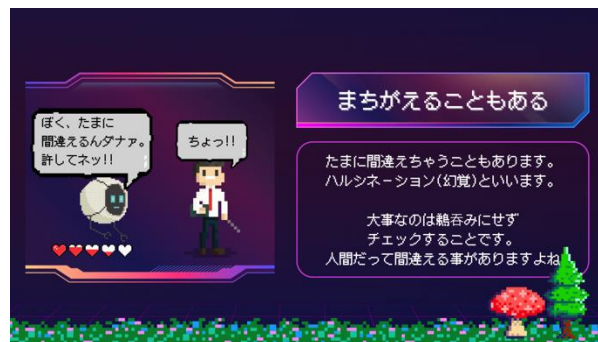
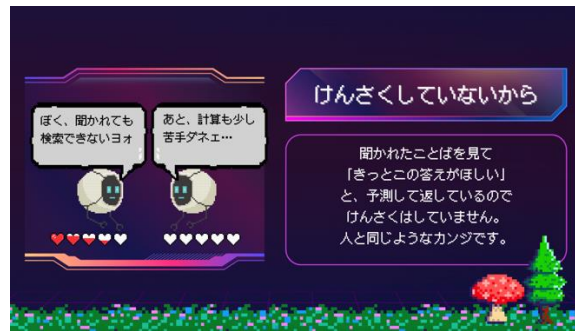
About Copyright

著作権について

画像生成AIで著作権が付与される可能性が高い行為

プロンプト	出力	レタッチ
独創性がある	取捨選択	独創性ある編集





【セミナー：担当者：田中悠介】

対象：特に若年層（学生や若手ビジネスパーソン）を中心に、幅広い年齢層を対象。

内容：

- ・犬山市に所属している犬山総合高校、名古屋経済大学の学生への運営協力を実施。
- ・生成 AI の専門家によるフロイデの講演をオンラインで配信することで、当日に訪問できない犬山市民でも参加可能にする。
- ・講演内容は、初心者でも真似できる生成 AI の使い方+上級者向けの生成 AI の事例や考え方について説明
- ・各学校、企業の定着、メディア発信、IPA 処理機構、各省庁

といった政府に関わっているメンバーとして活動している人物達の登壇だからこそ、確かな情報の発信を行う。

※生成 AI を用いる注意点として、生成 AI は答えではなく、考え方を聞くツールであり、自己判断が重要であることを、使い方の事例を用いて説明する。

説明例：宮野孝汰講演資料参照

(スライドの表現は違えど、必ず本内容に沿うものは説明)
※本スライドは、愛知教育大学名古屋附属中学校の教諭向けに講演したもの

リスクへの対応

生成AIと著作権

生成AIで作ったものが著作権侵害となる基準は「下記2つを満たしているもの」

- 1 類似性
他人の著作物の「表現上の本質的な特徴」を直接感得できるか？
→構図が似ている、画風が似ている など
- 2 依拠性
既存の著作物に対して、それを自己の作品の中に用いているか
→他人の作品を参考に行っている

他人の著作物に似せたコンテンツの生成をしない、というのが重要

リスクへの対応

生成AIと著作権

生成AIで作ったものは「著作物」にあたらない

著作権法上の著作物の定義

- ① 思想又は感情を
- ② 創作的に
- ③ 表現したものであつて、
- ④ 文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するもの

AIが自律的に生成したものは、「思想又は感情を創作的に表現した
もの」ではなく、著作物に該当しない

(例) 人が何ら指示＝を考えず (又は簡単な指示を与えるにとどまり) 「生成」のボタンを 押す
だけでAIが生成したもの

リスクへの対応

生徒がAIに頼りすぎてしまうことへの対応

レポートをAIにすべて書かせるなど

起こりうるケース

生成AI自体の性質やメリット・デメリットに関する学習を十分に行っていないなど、情報モラルを含む情報活用能力が十分育成されていない段階において、自由に使わせた場合

- 生成AIのメリット/デメリットを伝え、生徒のリテラシーを高める
 - メリット：新しい視点が得られる、高度な能力を使える
 - デメリット：間違いや、他の子と全く同じ回答が生まれる
- AIとのやり取りや、自分が考えた過程を添付として提出させる

教育現場での活用

学校で生成AIをどう使うか

生成AIが思考力を削ぐという懸念について

調査の結果、レポートを丸写しするなどの悪影響は見られていない



※生成AIがもたらす 高等教育へのインパクト → 大学生の利用実態調査から見えてくるもの※より引用

教育現場での活用

学校で生成AIをどう使うか

思考力を高めるための活用方法

“どうしてそう考えたのか”を生成AIと一緒に考え、バイアスや曖昧さを取り除く



教育現場での活用

日本政府の動き

文部科学省の考え方

デジタル行財政改革会議（第5回）



初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン

（2）生成AI活用領域に関する留意点

1. 生成AIの活用は、学習者の思考力や創造性を高めるための手段として活用されるべきであり、生成AIの出力結果をそのまま受け入れるべきではない。

2. 生成AIの活用は、学習者のプライバシーや個人情報保護に配慮する必要がある。

3. 生成AIの活用は、学習者の健康や安全に配慮する必要がある。

4. 生成AIの活用は、学習者の学習成果や評価に配慮する必要がある。

5. 生成AIの活用は、学習者の学習態度や学習習慣に配慮する必要がある。

6. 生成AIの活用は、学習者の学習意欲や学習動機に配慮する必要がある。

7. 生成AIの活用は、学習者の学習能力や学習成果に配慮する必要がある。

8. 生成AIの活用は、学習者の学習態度や学習習慣に配慮する必要がある。

9. 生成AIの活用は、学習者の学習意欲や学習動機に配慮する必要がある。

10. 生成AIの活用は、学習者の学習能力や学習成果に配慮する必要がある。

【ビジネスではなく、市民活動で行う意義】

- ・本内容は、ビジネスで行う場合、利益を重視してしまい、ビジネスマン向けに偏った情報の発信をしてしまう。
- ・本内容を「市民活動」として行うことで、初心者を中心とした市民に向けて活動を行うことができる。
- ・犬山市は全国の中で生成AIの導入が早い自治体であり、下記の登壇者はその活動に貢献できたメンバーの一部である。以前の生成AI EXP0in 犬山のメンバーの活動範囲や知名度が広がったため、無償での依頼は大変難しい。本メンバーに犬山市として活動を認めてくださったからこそ、彼らとしても犬山市の活動に参加する意味づけがあるので、ご承認をいただきたい。
- ・コストの面を考えて改めて半数のメンバーはオンラインの配信で協力をお願いすることにする。

【登壇内容テーマ：過去（前回）】

【2023年12月生成AI EXP0 in 犬山の内容】

	上ランキング 1 位を達成中。(2024 年 7 月現在) 経済メディアサイト「NewsPicks」にて、「生成 AI EXPO」に関するトピックスを投稿。 愛知県庁とソフトバンクのスタートアップ支援 PJ「STATION Ai」にメンバーとして採択。 8 月 2 日に教育 AI サミットを国会議事堂の議員会館で登壇。 犬山総合高校、愛知教育大学附属名古屋中学校、名古屋経済大学にて、生徒向けと教師向けに「AI 及び生成 AI」についての勉強会講師を担当。岐阜県各務原市のフェニックス医療グループのイベント「Gozare education」にて親子向けに生成 AI の講師として登壇。 ② 伊藤雅康：愛知県で画像生成を中心に親子向けの生成 AI 教育の講師を担当。 経済メディアサイト「NewsPicks」にて、「生成 AI」に関するトピックス投稿担当。 8 月 2 日に教育 AI サミットを国会議事堂の議員会館に副代表として開催。 内容として、文部科学省における教育の過程に 50%の使用を目標に対して、0.3%の状態に対して解決を模索。 著作権に関する保護の話を必ず実施。 愛知県庁とソフトバンクのスタートアップ支援 PJ「STATION Ai」にメンバーとして採択。 ③ 高橋和馬：富士フイルムビジネスイノベーション所属。生成 AI のコミュニティ「IKIGAI Lab」の代表。 NewsPicks の生成 AI におけるトピックスオーナーとして、過去最高の成長率を達成中。 8 月 2 日に教育 AI サミットを国会議事堂の議員会館で登壇。 ④ 三好美菜子：東京都の小学校の教員。通常は教員の傍ら、
--	--

	生成 AI における教育を担当。 ⑤ 國末拓実：経済メディアサイト「NewsPicks」にて、「生成 AI」に関するトピックス投稿担当。「SHIFT AI」、「DMM.com」における生成 AI の教育カリキュラム作成から講師も担当。 8 月 2 日に教育 AI サミットを国会議事堂の議員会館で登壇。 ⑥ 中嶋正純：マーケティング会社マクロミル所属。「IKIGAI lab」にて活動中。「NewsPicks」にて、「マーケティング」に関する生成 AI トピックス投稿。 インプレス「Gen AI Times」の筆者として投稿。 生成 AI に入力する文字「プロンプト大会」にて世界一を達成。8 月 2 日に教育 AI サミットを国会議事堂の議員会館で登壇。 ⑦ 野村康次郎：一般社団法人ディープラーニング協会 CDLE 埼玉発起人の 1 名。8 月 2 日に教育 AI サミットを国会議事堂の議員会館で登壇。 ⑧ 新谷信敬：スギ薬局薬剤師。経済産業省のインプレス「Gen AI Times」の筆者として投稿。独立行政法人情報処理推進機構（IPA）主催の「マナビ DX」終了。 ⑨ 細山田 隼人：日本ペイント・オートモーティブコーティングス株式会社(日本ペイントグループ)に所属 ・ 経営企画/戦略策定に従事 ・ 社内生成 AI 推進 プロジェクトマネージャー ・ 社内エンゲージメント有志団 EFE(Engagement for Employees)コミュニティプロデューサー インプレス「Gen AI Times」の編集者として担当。 ⑩ 大川美里：生成 AI 関連 スタートアップ企業勤務 兼業女優。本業はディレクター インプレス「Gen AI Times」の編集者として担当。
--	--

	【協力者紹介（一部）】 ⑪ 愛知洸：犬山市光明幼稚園運営。生成 AI の入力文字「プロンプトのコミュニティ」である「シユンスケ式コミュニティ」のコミュニティマネージャーを担当。1100 人規模の運営を担当。 ⑫ 宮野孝汰：中部国際空港の ICT 担当。独立行政法人情報処理推進機構（IPA）主催の「マナビ DX」終了。CDLE 名古屋のサブリーダー。国家資格である「IT パスポート」取得。 ⑬ 谷津祐也：ヤマザキマザック勤務。CDLE 名古屋所属。しぶちゅー技術研究所を日刊工業新聞や「Voicy」という音声ラジオで平日毎日配信。	
事業期間	事業開始予定日 2024 年 8 月 22 日 事業完了予定日 2024 年 12 月 31 日	
事業計画	時期	内 容
	8 月	事業計画の詳細な策定と準備。 「AI-EXP0」の宣伝材料の作成、ウェブサイトと SNS での告知活動。 展示内容、講師、スタッフの選定、会場予約などの事前準備。
	9 月～10 月	スポンサー及び参加者への依頼。 生成 AI EXP0 のサイドイベントの実施（犬山市外の場所での実施による宣伝）
	11 月 16 日	生成 AI EXP0 in 犬山の実施
	12 月	成果とフィードバックの分析。 最終報告書の作成と提出。

事業の効果	AI 技術の理解促進: 人々が AI に対する恐怖を減らし、興味を持ってもらう。 地域コミュニティの活性化: 市民同士の交流を増やし、地域の問題を一緒に解決する。 経済活動の促進: 地元企業のビジネスチャンスを広げて、地域の経済を元気にする。 地域課題への革新的ソリューション: AI を使って地域の問題を解決し、新しい価値を生み出す。
成果目標	AI に関心を持つ市民及び担い手の増加 目標：AI-EXPO 参加者合計 200 人（犬山市民 100 人）、新たな協力者 5 人（犬山市民 3 人）獲得。 AI 技術の普及と理解の深化 目標：参加者の AI 理解度の向上（アンケートで確認）、実践的な応用事例の 5 件以上の紹介。 地域コミュニティと経済活動の活性化 地元企業・団体 3 以上との連携、イベント参加者による新しいプロジェクト 2 件以上の立ち上げ。
今後の展望	・年数回の AI イベントを定期開催し、市民との継続的なエンゲージメントと AI 理解の深化を図る。 ・教育プログラムを拡充し、若年層を対象にした AI 技術者と興味者の育成に注力。 ・地域企業やスタートアップと連携し、AI を活用したビジネスモデルの開発と地域経済の活性化を推進。 ・AI 技術を利用して地域固有の課題に対処し、オンラインプラットフォームを通じた知識共有とアクセスの拡大。

※記入欄が不足する場合は、枠を広げて記載してください。

別紙 2

活動費用の内訳書（予算）

（収 入）

団体名 犬山 生成 AI 実行委員会

科目	予算額（円）	内訳
助成金	140,000 円	
協賛費	200,000 円	1 企業：5 万円～10 万円で募集
合計	340,000 円	

（支 出）

科目	予算額（円）	内訳
報償費	0 円	
旅費	110,000 円	交通費：20,000 円*5 人（愛知県外） 交通費：10,000 円（愛知県内者合計）
消耗品費	15,000 円	事務用品 15,000 円
印刷製本費	35,000 円	イベントチラシ代 35,000 円
通信運搬費	35,000 円	郵送費 35,000 円 対象：犬山市内の小中学校
手数料及び 保険料	0 円	
人件費	130,000 円	10,000 円*13 人
使用料及び 賃借料	15,000 円	会場費：15,000 円
計	340,000 円	